



鳥海山の会

会報第5号

ちょうかいさんのかい

平成20年12月24日発行

会報第5号を発行致します。今回は今年最後の会報で総会のお知らせが主となっております。また、総会当日に、会員でもあります水墨画家の打矢恵氏が会場で「新春の鳥海山を描く」実演を行う予定です。是非御鑑賞のうえ、総会にご参加願います。

総会終了後に、懇親会を計画しております。年に一度の懇親会ですので是非ご参加いただき、会員との懇親を深めてくださいますようお願いしております。

平成21年総会のお知らせ

日時	平成21年1月23日（金）午後6時～
会場	由利本荘市アクアパル多目的ホール
会費	21年会費 2,000円 総会懇親会費 3,000円
内容	20年決算及び21年予算（案）について 20年事業報告及び21年事業計画（案）について 会報誌「感動する鳥海山」の原稿募集について 「秋田鳥海山の日」設定発表

準備の関係上、総会及び懇親会への出欠を1月14日（水）まで事務局へご連絡願います。

"秋田鳥海山の日"を制定してください！

鳥海山の会では、「秋田鳥海山の日」を制定して県民に鳥海山に対する関心を深めていきたいと考えています。会員の皆様を始め、一般の方々からの応募をお待ちしています。何月何日を鳥海山の日と記し、何故その日なのかの理由を添えて、名前・年齢・郵便番号・住所・電話番号をご記入のうえ、下記の事務局までハガキか手紙、あるいはメールにてご応募ください。ただし、1人2通までとします。締め切りは平成21年1月5日（月）とします。（当日消印有効です）

なお、応募された中から選考して制定日を決定しますが、当選者には1月23日に開催されます平成21年度の総会において表彰と記念品を贈呈します。どしどしご応募下さい。今日現在で約50通ほどの応募が届いておりますが、会員の皆様方も奮ってご応募願います。応募者には豪華記念品の進呈も予定しております。

事務局と送付先

015-0332 秋田県由利本荘市森子字八乙女下123

鳥海山の会事務局 多田 厚 まで

電話・FAX 0184-53-3453

鳥海山の会専用メールアドレス「chokaisan@sc.namaste.jp」

鳥海山の会HPアドレスは「<http://chokaisan.namaste.jp>」となっております。

「第2回講演会と会員の講話」盛会裡に終る

鳥海山の会主催の「第2回講演会と会員の講話」を11月15日(土)に由利本荘市西目公民館シーガルで行いました。当日は約100名の方においでいただき盛会のうちに終了することができました。

初めに、会員であり鳥海山岳会副会長三浦俊雄氏が「鳥海マタギ」の演題で講話をされました。三浦氏は狩猟歴50年という様々な体験と、これまでのマタギについての研究をわかりやすく説明してくださいました。会場には三浦氏自身が撃ち取った熊の毛皮も展示され、臨場感あふれる講話となりました。

次に、日本植物分類学会会員であり、会員でもある堀井雄治郎氏によって「鳥海山の植物」について講演がなされました。

堀井氏の講演は、最初にチョウカイフスマを取り上げ、植物分類学の研究に沿った歴史的推移を紹介し、氏の観察と研究によって植物の進化が判明した内容を話されました。

続いて鳥海山に植生する特徴的な花をスライドで紹介し、鳥海山を北限とする暖地性植物も多く、「鳥海山は花の種類も多く、宝の山である」との言葉が印象的でした。

【会員による講話「鳥海マタギ」・三浦俊雄氏】

小学校の時からマタギであった父と山を歩くようになった。それ以来狩猟歴は50年にもなる。秋田県のマタギの本家は森吉山を主に狩り場とする阿仁マタギである。鳥海マタギは鳥海山をフィールドとし、百宅部落には岩手の狩猟の名人が861年に伝えたといわれる。3組のマタギが存在した。丁岳山系には樫ヅラマタギ、野宅マタギ、皿川マタギ、甕マタギがいた。マタギは独特のマタギ言葉を話し、山の神を崇拝していた。狩猟の仕方にも流派があり、鳥海マタギは日光派に属している。マタギの猟は獲物は山の神のおかげであると山の神に感謝の呪文をとるのが常である。感謝の心がないと猟はうまくいかないものである。

熊はだいたい80kg、160cmで成獣となるが熊の一撃は牛馬を打ち砕くとも言われる。熊狩りの適期は4月～5月の残雪期に雪わたりをしながら行われた。猟のすべては、シカリ(首領)がすべて指示する。アゲマキ、サゲマキといわれるやり方で熊を追いつめていく。マタギは鉄砲(シロビレ)を構える地点でメッテ(木化け)となり、熊が射程に近づくまでびくともしないで待ち続ける。マタギは体力勝負である。マタギは猟の行われる春に照準を合わせ、普段からカンジキを履いて訓練をするのである。

【講演「鳥海山の植物」・堀井雄治郎氏】

チョウカイフスマは1887年矢田部良吉が鳥海山で採取し、メアカンフスマの別種チョウカイフスマと命名した。その後、多くの学者がメアカンフスマと同種と見なしていたが、1966年奥山春季が母種メアカンフスマの変種とした。

1995年の発表論文で鳥海フスマには両性花と雌性花があることを発表した。それまではチョウカイフスマ、メアカンフスマとも両生花のみであると思われていた。雌性花の方が種子生産が多く蜜も多い。両性花と雌性花の割合は、康新道で8:2、頂上付近で6:4となっている。2001年の発表論文でチョウカイフスマとメアカンフスマの形態の違いを発表した。チョウカイフスマとメアカンフスマの分類の違いは、萼と花弁の長さで判断できる。メアカンフスマは萼が長い、チョウカイフスマは萼が花弁より短い。

鳥海山は花の量が多い。ヒオウギアヤメは山形県側には無い。ホソバノシバナは国の絶滅危惧種となっており、百宅口の湿原に見られる。ニッコウキスゲの花弁の細かいものが見られる。ヒメクワガタは秋田県では鳥海山のみで見られる。アラシグサも鳥海山で特徴的な植物である。ヒメウメバチソウ、アズミイノデ、カラクサイノデ、オクヤマワラビ、タテヤマズグサは秋田県では鳥海山と朝日岳に見られる。ヒゲノガリヤスも鳥海山らしい植物である。

鳥海山は大事な山である。山麓には鳥海山を北限とする暖地性植物が多い。タブ、ヤブツバキ、ヤブツバキとブナの接点が鳥海山麓にある。またシダ植物が多いのも特徴的である。関東にないものがある。秋田県を北限とするシダが多い。対馬暖流の影響があると思われる。そういう意味で鳥海山麓は貴重な山である。

鳥海山は、登山コースによって植物が違うという特徴を持っている。鳥海山はそういう意味で植物の植生のスケールが大きくボリューム感がある。国の宝とっていい山である。